

令和8年3月11日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立五本木小学校

校長 海老江 直子

令和7年度 目黒区立五本木小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

(1) 第1回実施日時 令和7年9月20日(土) 午前11時00分～午後0時30分

- ・令和7年度の学校経営方針について
- ・令和7年度の教育活動について
- ・学校の様子
- ・給食の試食 等

(2) 第2回実施日時 令和8年2月14日(土) 午前10時00分～午前11時30分

- ・令和7年度の学校評価の結果について
- ・令和7年度の教育活動について
- ・学校の様子 等

2 参加者

望月 昇 (目黒ユネスコ協会理事)

上野 勇 (本校元PTA会長)

宮下 直紀 (五本木住区青少年部)

外河 瑞 (民生児童委員)

3 評価の結果等

※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	四者※による学校評価アンケートの結果分析 ◎(成果)、●(課題)、 ◎(成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見
I 学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて	<u>学校の雰囲気</u> ◎保護者・児童・地域のいずれも昨年度より肯定的評価が上がり、90%を超えている。特に低学年で肯定的評価の割合が大きく上がったことは、昨年度の学校評価の課題であった1年生の学習環境づくりに取り組んだ効果が表れたと考えられる。 <u>教職員の対応</u> ◎児童の「先生は話を	・本校のよさである高学年を主体とした落ち着いた雰囲気づくりを、今後も継続していくよう学校教育全体で取り組んでいく。また、今年度改定した「スタートカリキュラム」を軸に、低学年児童の指導を計画的に行っていく。教職員全体で児童を見守り育てる姿勢で連携しながら落ち着いた環境づくりに努めていく。	・学校全体の雰囲気がよい。子どもと先生の距離感もよく、子どもが安心して先生と接している。 ・先生も子どもたちも挨拶をよくしてくれる。よい教育をしていると感じている。

	<p>聞いてくれますか」に対する肯定的評価は、低・高学年とも今年度は94%を超えている。特に高学年においては区の平均からも大きく上回り、本校の児童と教職員の信頼関係が高いことが窺える結果となった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員間で児童の様子を共通理解し、複数で対応策を考えることで、児童が納得し、次への取組に積極的に行動できるように働きかけるようにしていく。 	
<p>II 教育目標について ・教育目標、時程、教育内容全体について教育目標について</p>	<p><u>教育目標</u> ◎保護者の評価では、昨年度と比較して肯定的評価が若干上がり、90%近い支持を得ている。しかし、地域の評価では、肯定的評価が12.5ポイントと大きく下がっている。本校の教育目標に基づく学校経営方針を地域に積極的に示し、地域と連携しながら学校教育を行っていくことが課題である。</p> <p><u>教育活動全体</u> ◎児童の「あなたは五本木小学校が好きですか」に対する設問については、保護者・児童ともに肯定的評価が上昇し、いずれも90%を超えている。今後も、児童が「五本木小学校が好き」と言えるように、教育活動を工夫していく。また、地域の肯定的評価は16.7ポイント下がっている。教育目標と同様に、本校の教育活動を積極的に伝え、連携していくことが課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も教職員が教育目標の特色やよさを意識し日々の授業や学校行事を計画していくとともに、引き続き保護者会等でその主旨や関連事項について発信していく。 ・来年度から発足するコミュニティ・スクールとして、学校の教育方針や教育内容について地域に理解を促し、共に考え連携しながら教育活動を推進していく。 ・来年度も魅力ある教育活動の計画と実践に努めるとともに、学校に登校できない児童の実態を把握した上で迅速に保護者や外部支援機関等と連携を図り、児童に寄り添ったきめ細かな対応をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の「あなたは五本木小が好きですか」に対する肯定的評価が上昇しているのは素晴らしい。子どもたちは安心して通学し、保護者もそれを評価している。 ・五本木小学校の教育目標である「持続可能な社会の実現のために行動できる将来の担い手となる子どもを育てる」が、子どもたちに意識されている。学校教育全体で様々な活動がされている。校内の森や池の環境がよく、子どもたちも大事にしている。

<p>Ⅲ 心の教育について</p> <p>・道徳科(道徳)の授業の充実や児童・生徒の道徳的实践力の向上に向けた取組について</p>	<p>◎保護者・児童ともに昨年度よりさらに肯定的評価が上がっている。特に児童においては、低学年・高学年とも95%以上の評価を得ている。過去2年間目黒区人権教育推進校として、人権意識を育てることをとおして、心の教育に焦点を当てて取り組んできた成果が表れていると思われる。今後も継続的に取り組み、児童の豊かな心を育てていく。</p>	<p>・今後も人権教育を意識できるような取組や道徳科等の指導の充実に努めていく。また、「ふれあい月間」や5年生が代表として参加し近隣の小・中学校の児童・生徒と意見を述べ合う「児童によるいじめ防止会議」等の機会をとらえ、児童自身がいじめについて考える機会を設ける。</p> <p>・いじめの未然防止や早期発見ができるよう毎週行っている生活指導夕会で、児童の様子を共有する。また、生活指導部会や「学校いじめ対策会議」を開催し、スピード感をもって対応していく。</p>	<p>・「児童によるいじめ防止会議」など、子ども自身がいじめを意識できる機会があるのはよい。</p> <p>・子ども同士のトラブルがあるのは当たり前。学校は失敗してはいけない場所ではない。きちんとトラブルに対応して教育しようとしているのが伝わる。</p> <p>・主任児童委員と連携して、地域と繋がり、子どもたちの健やかな成長を応援していきたい。</p>
<p>Ⅳ 学習指導等について</p> <p>・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、〇〇タイム、主体的に学習に取り組む態度等の取組について</p> <p>・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について</p>	<p>◎児童の「学校の勉強は分かりますか」に対する評価は低学年・4高学年とも90%を超え、高い数値となっている。特に、高学年児童においては、96.2%と、区の平均と比べてかなり高い結果となっている。</p> <p><u>情報端末の活用</u></p> <p>◎学習用情報端末の活用については、保護者・児童ともに、昨年度と比較して肯定的評価が上昇している。特に、児童においては、低学年・高学年とも96%を超えていることから、積極的に活用し、その効果も感じていることが結果として表れている。一方、一部の保護者か</p>	<p>・教職員の指導力向上を図るとともに、学年間での交換授業や支援員等の配置等を通じて、児童が意欲的に学習に臨めるよう引き続き、学習環境を整える。</p> <p>・「デジタルを活用したこれからの学び」推進校として、児童が学習用情報端末をツールとして効果的に活用できるよう研究・実践を行おう。学校公開の際に、保護者に活用の様子を積極的に伝えていく。</p> <p>・校内での学習用情報端末の使用ルールを児童に徹底していくと共</p>	<p>・高学年児童が「学校の勉強は分かりますか」の設問に96.2%の肯定的な回答をしているのは素晴らしい。</p> <p>・学習用情報端末を使用することで、書くのが苦手な子も、自分の考えを表現することができる。</p> <p>・学習用情報端末で電子図書を導入したことが、情報端末の活用に対する肯定的評価が上昇した要因の一つかもしれない。</p>

	ら、学習用情報端末に頼りすぎてしまうことへの心配や、家庭での過度な使用に対する不安や家庭での使用の仕方についての相談も寄せられている。	に、保護者会等を利用して、家庭での使用ルールについて児童と話し合っていたり、よう呼び掛けていく。	
V 体育・健康教育について ・体力向上、健康の促進に向けた取組について	◎低学年児童・高学年児童ともに、肯定的評価が上がり、90%を超えている。本校の校一取組である独自の「健康スポーツタイム」で楽しく身体を動かすことを毎日の習慣としていること、また、「なわとび名人」「おこなわ大会」「ペースランニング」など、年間を通して児童がチャレンジする機会を設けていることが児童の健康やスポーツに対する意識付に繋がっていると思われる。また、主任養護教諭による保健の学習を、全学年年間を通して計画的に行っている。引き続き「保健だより」などで、保護者に健康への意識を啓発していきたい。	・今後も「健康スポーツタイム」など年間を通した取組を通じて、児童の遊びや運動促進の取組を継続させる。 ・主任養護教諭や主任栄養教諭による授業を来年度も行い、児童の自分の体や健康的な生活を送ることについての理解を深め、健康に対する意識を高めていく。また、毎月の「保健だより」「給食だより」で、保護者が児童とともに健康な体づくりを考えていくような情報を発信していく。	・「なわとび名人」や「おこなわ大会」などの取り組みは、普段身体を動かしていない子もこぞってチャレンジしている。
VI 特別活動について ・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の活性化などについて	◎保護者からは、昨年度と同様に、学校行事への期待とゲストティーチャーを数多く招聘していることへの評価が多数寄せられた。	・今後もゲストティーチャーを積極的に招聘し、児童の興味・関心や学習内容がより深まるような授業を計画的に行う。運動会や音楽会、自然宿泊体験教室等の学校行事は、安全に配慮する中で児童の考えやアイデアを尊重し、児童が達成感や充実感を感じる取組を行う。 ・クラブ活動や委員会活動、縦割り班活動は、今後も児童の意欲や発	・正門横の掲示板で、学校がゲストティーチャーを招聘して様々な教育活動を行っていることが窺える。 ・学校ウェブサイトでも引き続き保護者に様々な活動を発信していくとよい。

		想を大事にし、自主性を育てられるような指導を行う。	
Ⅶ 学校生活全般について <生活指導> ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて	◎保護者・児童ともに昨年度と比較して肯定的評価の割合が上昇している。昨年度課題であった低学年の学習規律や生活規律について、教職員間で情報共有・取り組みを行った成果だと考えられる。	・生活指導については、来年度も引き続き生活規範やいじめ、不登校の実態等について生活指導夕会で情報共有し、対応策を共通理解した上で組織的に対応する。 ・教職員の校内委員会が中心となり、合理的配慮が必要な児童や不登校、長期欠席の児童への対応について検討する。スクールカウンセラーや外部支援機関等とも連携しながら、児童の気持ちに寄り添った対応を提案、実行する。	・昨年度低学年が落ち着かない様子が見られたが、今年度肯定的評価の割合が上昇したのは、学校全体でチームとして対応したことが改善に繋がり、それが保護者に分かるように伝わった結果だと思われる。
<防災教育・安全指導> ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて	◎防災に対する肯定的評価は、高学年児童は97.3%、低学年児童94.4%と高い数値を示している。一方、保護者においては85.1%と昨年度より2.7ポイント上昇しているが、児童と比較すると低い数値に留まっている。 ◎安全指導については、保護者・児童ともに約95%以上の肯定的評価となっている。今年度は、昨年度課題であった「現代に応じた設定での想定外の出来事が起こった場合の避難訓練」を警察と連携して実施した結果が評価されたと考えられる。	・9月の学校公開では、引き続き住区と連携し、各学年に応じた防災教育を推進する。本校の特色である6年生の防災検定や避難所体験等の取組については、さらに充実させ、防災意識を高めていく。 ・避難訓練は、来年度も様々な場面を想定した訓練を実践する。 ・保護者来校時の「来校証」の携帯については、年度当初からの呼びかけの成果が一定数表れている。引き続き様々な機会を捉えて、全ての保護者が携帯することを目指し、防犯への意識の啓発と携帯を呼び掛けていく。	・五本木小学校は、伝統的に安全教育に取り組んでいて、子どもたちの防災意識が高い。 ・6年生児童が防災検定を受検することが、成長して大人になった時の防災意識の高さに繋がっていることを、地域として感じる。

<p><幼・保・小・中連携></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・近隣の幼稚園・保育園との連携について中学校や同じ中学校区の小学校との連携について 	<p>●保護者の肯定的評価は目黒区全体の結果と比較すると高い数値を示しているが、昨年度と比較すると10.5ポイント下がっている。昨年度と同様な活動内容を行っているが、今年度は小・中連携活動についての学校ウェブサイト等での発信が少なく、十分に伝わっていないことが原因と考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中連携、また幼稚園・保育園との交流については、学校だよりや学校ウェブサイト等を通して、積極的に保護者や地域に発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この項目については、取り組みが保護者に伝わりづらい。発信の仕方が課題である。 ・中学校の先生を小学校に招き、子どもたちの実態を見てもらい、中学校のスタートに備えていただくとういのではないか。 ・小学校1年生のスタートカリキュラムはともよい。
<p>Ⅷ 情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の情報発信の充実などについて 	<p>●「教育活動の様子を分かりやすく伝えている」に対する保護者の評価は昨年度5ポイント上昇したが、今年度1.7ポイント下降した。教員の働き方改革と全学年の活動を保護者に発信したいとの思いから、学年だよりを廃止し、学校だよりのみに統一したことも下がった要因の1つと考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、学校ウェブサイトで児童の学校生活の様子を積極的に発信してきた。ウェブサイトを進んで見てもらえるよう、保護者に呼びかけ、教育活動の周知や理解を求めたい。 ・学校からの通知がペーパーレス化され「保護者連絡システム」での発信に切り替わったことにより、保護者がいつでも自らのタイミングで情報を目にすることが利点であると同時に、情報を自ら取りに行く必要が生まれたことが課題である。昨年度学校評価委員会で意見をいただいた「緊急の場合は、添付ファイルを開かなくても内容の要点が伝わるよう、通知文自体に内容を掲載する」ことや全員に速やかに伝えたい件に関してはメールに「重要フラグ」を付けるなど、保護者連絡システムの発信の仕方を引き続き工夫していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校からの情報は、紙ベースだと壁などに貼って見返すことがあるが、データだと意識しないと見る機会がない。工夫が必要。

<p>IX 教員の人材育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について 	<p>○目黒区教育開発指定校として年間をとおして授業研究に努めてきた。全員が研究授業を実施し、講師を招聘してさらなる授業改善に努めている。また、月に1度OJT委員会を開催することで、指導力向上を目的とした研修を行っている。授業を互いに観察し、指導や助言をし合うことが定着している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度も校内研究を通して、教職員一人ひとりの授業力の向上を図る。また、月に1度のOJT委員会を継続して設定する。 ・ 校外研修に積極的に参加し、学んだ指導方法の校内への還元研修を実施することで、教職員の指導力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度もよろしくお願ひします。
<p>X 教員の働き方改革について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について 	<p>◎昨年度より導入した定時退勤日を月に1日設定していることが、早めの退勤を心がける意識に繋がっている。また、会議の設定時刻の工夫や効率的に行うためにPCを活用して議題や内容の精選などを行っている。その結果、昨年度より平均超過勤務時間は減っている。しかし、教育用情報端末の入れ替えなど新たに加わった業務も多いため、業務量は依然多いままである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き会議の設定時刻や内容を精選し、教員が教科指導の準備や事務仕事ができる時間を生み出す。来年度は1月に研究発表会が計画されているが、計画的に準備を進めることで、教職員一人ひとりが健康に留意して取り組むことができるよう、管理職が全体を掌握していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先生たちが業務で手いっぱいになってしまうと、新しいことを取り入れるのが難しくなる。業務を減らすことが必要。 ・ 午前5時間制で、先生たちにもゆとりが生まれると、授業の準備や保護者との連携の時間を取ることができてよい。
<p>XI 服務事故の防止について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 服務事故防止に向けた取組などについて 	<p>◎年に2回の服務事故防止研修を通じて、服務事故防止に対する意識が高まっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年に2回の服務事故防止研修において、服務事故の理解と一人ひとりがセルフチェックにより自分自身を振り返る機会を設けることで、「自分にも起こり得ることである。」という危機意識を高める。また、職員夕会での注意喚起や服務事故の記述の回覧等も行い、年間を通して服務事故を未然に防ぐという意識を継続させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度もよろしくお願ひします。

